

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772500761		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホーム自由時館		
所在地	池田市鉢塚2-5-29		
自己評価作成日	平成27年5月	評価結果市町村受理日	平成27年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2772500761-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2772500761-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年6月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由時館では、出来るだけホームに引きこもらず外出できるように心がけています。毎年恒例となっている、利用者様、ご家族、職員での一泊二日の温泉旅行では合同での宴会会を披露するなど皆様非常に楽しみにされています。町内会の季節のイベントにも積極的に参加し、地域の方との交流も深めています。イベントのない時も天気の良い日は外でおやつを召し上がっていただいたりと外出を日常的にしています。又、こども110番にも参加し、近くの中学生の福祉体験にもご協力させていただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは開設時から掲げられている「みんなのためにあなたがいる。あなたのためにみんながいる」とのホームの理念の基、利用者の立場に立ち考え支え合うことを大切にした支援を心がけています。地域と良好な関係を築き、自治会長から地域の行事などの情報を得て盆踊りや秋祭りに参加したり、婦人会が主催するふれあい喫茶への参加をきっかけに三味線や歌、マジックショー等のボランティアの来訪に繋がりが深まっています。また、外出の機会を多く作り、日常的に散歩や希望にそった外出をはじめ、季節ごとに花見や紅葉狩り、初詣などに出かけています。更に、毎年家族も誘い行く一泊旅行にが恒例となっており、利用者の楽しみとなっています。利用者のその人らしい暮らしに向け職員間で話し合い思いにそった介護計画を立て実践できるよう取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間の話し合いにより「みんなのためにあなたがいる。あなたのためにみんながいる」というホーム独自の理念を作り職員間で共有している。	管理者は開設時に作成された理念に込められている利用者の立場に立ち考え支え合うことの大切さを入職時やミーティング時に伝え、理念の実践に繋げています。フロアや事務所に掲示し常に意識できるようにし、ミーティングで利用者本位の支援ができるよう振り返り話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、月に一度のふれあいサロン、町内の季節のイベントにも積極的に参加している。	町内会に入り回覧板や自治会長から地域の行事などの情報を得て、盆踊りや秋祭りに参加しています。婦人会が主催するふれあい喫茶への参加をきっかけに三味線や歌、マジックショーなどのボランティアの来訪に繋がり、交流が徐々に広がっています。また、同法人の保育園との交流や中学生の福祉体験の受け入れなど子供達とふれあう機会を多く作っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成講習受講済みの職員がおり今後地域に向けての勉強会も考えている。地域中学生の福祉体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行い、当ホームの状況報告、意見交換等を行っている。	会議は家族代表や地域包括支援センター職員、町内会会長、地域福祉委員等の参加を得て隔月に開催し、ホームの状況や行事等の報告を行い、外出や防災等テーマを決めて意見交換をしています。祭りの際の駐車場の情報をもらったり、ボランティアの受け入れについての意見が出され、サービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議録を作成し、毎回報告している。アドバイスをいただいたり、相談等も行い質の向上に取り組んでいる。	市内のグループホームの会議に市の担当者の出席があり、意見交換やアドバイスをもらう機会があります。担当者とは良好な関係を築き、運営推進会議の議事録を直接窓口へ届けたり、わからないことがあれば電話で聞いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、一人で外に出られる利用者様がおられ、ご家族の希望もあり、危険防止の為、施錠している。	身体拘束についての研修を受けた職員がミーティングの際に伝達をしたり資料等を回覧してもらい、言葉による行動の制止についても全職員に周知しています。やむを得ず4点柵をする時には毎月検討し柵を外せるように取り組んでいます。現在家族の希望により安全のため入り口の鍵をかけていますが、利用者が拘束感を感じないように外出を多くしたり、できるだけ出たいときに外に出る等の支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員にも社内研修を行なっている。		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員にも社内研修を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間をとっていただき、契約を行なっている。不明な点などは、理解、納得がいくまで説明を行なうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様とコミュニケーションを図り、意見や不満を言っていただく。発言がしにくい場合もある為、意見箱を設置している。月に一度の派遣相談員の訪問もある。	利用者の意見や要望は日々支援する中で聞いたり、毎月訪問する介護相談員を受け入れコミュニケーションをとってもらっています。家族へは毎月手書きの手紙や写真を送り利用者の様子を伝え、面会時や電話等で意見や要望を聞いています。個別のケアに対する要望等が多く、速やかな対応を心がけ更に意見をもらえるよう働きかけたいと考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を業務に反映させるように取り組んでいる。	毎月行われるミーティングや日々意見が出しやすい様な雰囲気を作り、備品の管理などを法人全体で取り組めるよう提案し実施に向けて検討されています。職員は献立やイベント、広報等の業務担当を担い提案を行いミーティングで検討する等、意見や提案をサービスに活かしています。また管理者は不定期に面談を行い、個別に意見を聞く機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いが刺激しあい、向上心を持って働けるような環境になるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特定の職員だけでなく色々な職員に研修を受ける機会をつくりたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月毎に池田市のグループホームの管理者、計画作成担当者、リーダーが集まる機会があり意見交換や困難事例等の検討会などを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと時間を作り、本人が安心できるよう信頼関係が築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に沿えるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、職員が話し合いながら、ご本人にとって何が一番必要なのかを話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員と言う関係ではあるが、家族同様お互いが支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族のようにご本人を支え、ご家族が気軽に訪問していただける環境作りを心掛け、ご家族にも協力していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加することや、入所前からのお付き合いを出来る限り支援している。	親戚や以前近所に住んでいた馴染みの方、行きつけだった店の方の面会があり、リビングや居室等好みの場所で利用者の状況に応じて職員も付き添いながらゆっくりと過ごしてもらえよう支援しています。よく行っていた商店街への買い物や理髪店へ通う支援をしたり、家族と墓参りや法事に行く等馴染みの関係継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様が隣の席になるようにしたり、一緒に外出できる機会を作っている。		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族と連絡を取り、ご本人に面会に行く関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らし方の希望を聞き取り、ご意向に沿うように努力しているが、出来ていないこともある。	入居前の面談時に生活歴や暮らし方の希望、意向等を直接本人や家族に聞いています。入居後は関わりの中で利用者に笑顔がみられたこと等を日々の記録に残し、意思疎通の図りにくい方も毎月行うモニタリング時に職員間で話し合い思いや意向の把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご本人とご家族から情報収集を行い、入所後も話しやすい状況を作り時間をかけて情報を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を記録して心身状態、出来ることをアセスメントし把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成はご本人、ご家族、主治医、居室担当職員と管理者等が話し合い介護計画を作成している。ご本人とご家族の要望や意向をよくお聞きしモニタリングをするように努めている。	本人の思いや家族の意向、本人のできることやわかること等をアセスメントし、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。計画の実施状況を日々記録に残し、毎月モニタリングを行い計画が現状に即しているかを確認し、変化のない場合は3か月毎にサービス担当者会議を行い見直しています。見直しに当たっては、再アセスメントを行い家族の意向や医師等から意見をもらい、計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に作成した介護記録で体調やケアの実践の状況の情報を共有し、状況に応じて介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は系列の介護タクシーの利用があったが、現在は無い。		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館の催物への参加や地域の季節の行事への参加を積極的に行なえるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療の訪問診療があるが、ご本人とご家族の希望の応じたかかりつけ医に訪問診療をお願いしている。	以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを説明し、継続している方の受診は職員が支援しています。ほとんどの方が月2回の協力医の往診を受け、24時間連携可能な体制を整えています。月に1度の訪問歯科を受け、希望や必要に応じて治療や口腔ケアを受けています。ケアマネジャーが看護師であり、日々の健康管理や医療との連携をスムーズに行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応してくれる訪問診療の医師や看護師と連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、相談員との連携を取り、情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合いの場をもっている。状態の変化にあったケアを行う為に必要に応じ医師も交えてご家族と話し合い、方針を共有している。	入居時に重度化した場合や終末期の対応についてホームでは医療行為ができないことや看取りの支援の体制が整っていないこと等を説明しています。重度化し状況が変わった際には、家族や医師、職員で話し合いを重ね方針を決め、職員間で方針に沿った対応を話し合い情報を共有して支援しています。法人として終末期支援に向けての体制作りを検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や定例会議において緊急時の手順や事故発生時の対応について徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団の協力のもと火災訓練を行なっている。ホーム独自で総合訓練と部分訓練を各一回、避難訓練を行なっている。	年に2回行う火災訓練の内1回は地域の消防団の立ち合いの下行い、通報や避難誘導、消火器の使い方等の訓練を行っています。夜間を想定した際は誘導の順番や方法を確認し、昼間の想定時にはシーツで担架を作り移動する訓練を行い、課題を明確にしています。地域の防災訓練に利用者も参加したり、運営推進会議で地域の協力を働きかけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを意識している。	毎月のミーティングの度に接遇やマナー、尊厳を大切にした対応について管理者は伝え、敬語で話すことを基本としています。利用者によっては意思疎通が図りしやすい言葉掛けをすることもあり、個々に合わせた対応を心がけています。特に排泄の話をするタイミングやかける声の大きさ、見守り方などに配慮し、職員間でも注意し合うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるように声かけには工夫をするように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしているが、職員の人数の問題もあり、入浴時間等は限られた時間になる事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望で毛染めやメイク、ネイル等が出来るように支援したり、服装も相談に応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、食事作り、片づけをその人の能力に合わせて一緒に行なっていただく。	献立は担当の職員が季節等を考え1か月分立てています。その日の買い物で献立を変更したり、好みに合わせて代替えのものを準備しています。野菜の下ごしらえなど利用者のできることに携わってもらい、食事は職員も一緒に会話をしながら和やかな時間となるよう支援しています。なすびやピーマンなどのホームで作った食材が食卓にあがったり、手作りのおやつや近隣に食べに行く等楽しんでもらっています。花見などの行事には手作り弁当を持って出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	豆乳の提供やコーヒータイム、おやつ等で栄養バランス、水分量が確保できるようにしている。又、水分量、食事量が分かるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状態に合わせて、口腔ケアスポンジ等を使用し口腔ケアを行なう。ご自分で出来ない利用者様は職員が介助している。		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレ誘導の時間を工夫して、オムツの使用を減らすようにしている。	排泄の記録を基にパターンを把握し、一人ひとりのリズムに合わせてトイレに誘導することで、失敗が少なくなるよう支援しています。個々の状況の変化をミーティングや日々支援する中で職員間で話し合い、パッドやおむつなどの排泄用品の種類や支援方法を検討しています。自立に向かうよう支援した結果失敗が減り布の下着で過ごせるようになった方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人数の都合で時間帯はある程度限られている。希望にあわせたシャンプーを使用している。	入浴は週に3回を目処に午前中を基本に支援し、その日の希望や様子に合わせて午後や翌日に変更しています。希望があれば毎日の入浴も対応可能であり、毛染めをしたり入浴剤を選んでもらうなど、個々にそった支援に努めています。拒否の方には時間帯を変えたり声のかけ方を工夫しながら入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせてお昼寝等をして過ごしていただく。居室の温度、湿度を調節し安眠に繋がる様に工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の一覧表がいつでも確認できるようになっている。薬の変更、追加時は申し送りの徹底をしている。薬局と連携し薬のセットや在庫管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にあった趣味や好みを理解し、生活の中に取り入れる事により楽しみながら過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望時、買物や外出の支援に努めている。	日常的に近隣の公園への散歩や買い物、ドライブに出かけています。その日の希望があり職員の体制があれば、おやつや衣料品等の個人の買い物に行くこともあります。菖蒲や桜等の花見や紅葉狩り、初詣などの外出行事で出かけたり、毎年一泊旅行に家族も誘い行くことが恒例となっており、利用者は楽しんでます。	



グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からのお小遣いをご自分で管理され、買物時にご自分でお支払いされる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時には、電話をかけたり、手紙を出したりする事の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱をしないように大幅な配置変更はしない。温度管理にも配慮している。	共有空間には思い出の行事の写真や季節が感じられる折り紙や貼り絵の作品を飾っています。利用者が集う食卓の他、テレビ前やリビング端にソファを置き居心地の良い場所を選び過ごすことができるよう配慮しています。毎日利用者と共に掃除し、天窓からの日よけを簾でしたり換気や冬季には加湿にも気を配り、快適な空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースの問題もあり居室以外では一人になれる場所はないが、ソファの座る位置などお気に入りの場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や好みの物をお部屋に置いて生活してもらうように配慮している。	窓が多く明るい居室には、入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうように伝え、使い慣れた籐の家具やテレビ、筆筒などを家族と相談し配置しています。好きな映画のDVDを置いたり、好きな景色や行事で撮った写真等を飾り、その人らしい居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手伝い過ぎないように職員同士声を掛け合いながら、本人の力を引き出すようにしている。		